

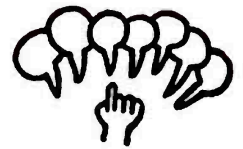
多くのがん患者が「まさか自分が」と言いますが、ぼうこうがんに罹患（りかん）した私もその1人です。34年間もがん医療に携わってきた専門医の私ですらそうなので、私から、私たちは自分がんになるといった意識は持たないように「プログラム」されているのかもしれない。

今回、自身の経験を踏まえて、最低知っておくべき点を7カ条にまとめてみました。

①症状を出しにくい病気がんは少々進行しても症状を出しません。樹木希林さんが乳がんの全身転移を抱えながら5年も映画などで活躍できたことから分かります。ましてや早期がんではまず症状は出ないと言えます。私の

## がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

## 知っておくべき7カ条

人もいます。検診もすべてのがんを見つけることは不可能です。がんには運の要素もあることは確かです。

④早期なら95%が治る病気がん全体の5年生存率は65%程度ですが、早期がんに限るとほとんどが治癒します。治療に要する時間やお金など、コストも進行がんよりはるかに少なくて済みます。

改善と早期発見の2段階構えがなんととっても大切です。

⑥早期発見の力ギはがん検診早期がんは症状を出すことはまれですから、絶対調であっても定期的に「がん検診」を受けることが必要です。まずは、五大がん（胃、大腸、肺、乳、子宮頸がん）の検診をきちんと受けてください。

⑦治療法も選べる病気が手術以外にも放射線治療という選択肢もあります。薬物療法も進歩しており、がん治療は選べる時代です。

ぼうこうがんもそうでした。

②リスクを減らせる病気が

男性の場合、がんの原因の半分以上が生活習慣で、遺伝は5%程度にすぎません。がんのリスクは自身で大幅にコ

ントロールできるのです。

③運の要素もある病気が

ヘビースモーカーで大酒飲みでもがんにならない「運のよい人」もいます。逆に、完璧な生活習慣でもがんになる

⑤生活習慣＋早期発見が大事

禁煙や節酒でがんのリスクを下げることは大切ですが、運悪くがんになった場合にも備えておく必要があります。それが早期発見。生活習慣の

がんにならないと思う「本能」に逆らうのは難しいとしても、最低限この7カ条だけは知っていただきたいと思えます。

（東京大学病院准教授）